



Japan  
Prosthodontic  
Society

# Letter for Members

日本補綴歯科学会  
ほてつ

Japan Prosthodontic Society

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 川添堯彬

編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財)口腔保健協会

TEL 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

平成 14 年 6 月 10 日発行

## コンテンツ

第 107 回学術大会に多数の会員が参集	1	今後の学術大会	6
新企画 技術・技工セッション始まる	2	支部学術大会のお知らせ	6
課題口演優秀賞受賞演題紹介	2	認定医更新のご案内	6,7
編集委員の委嘱について	2	医療広告規制の緩和について	7
準会員設置に伴う会則変更	2	法人化に対する本学会の対応	7,8
名誉会員紹介	2,3	三学会合同会議報告	8
学会特別功労賞受賞者紹介	3,4	海外研究機関の紹介	8,9
学会論文賞決まる	4	関連学会案内	10,11
学会会員数の状況	4	関連国際学会案内	11
第 80 回 IADR で Prosthodontic Group と 本学会との合同シンポジウム開催	4	関連学会報告	11,12
診療報酬改定で本学会からの答申が 採用される	5	関連国際学会報告	12
第 108 回学術大会案内 (予定)	5	新入会会員紹介	12
		広報委員会からのお願い	12
		ニュース	4,8,11

## 第 107 回学術大会に多数の会員が参集



講演中の黒川 清教授

平成 14 年 5 月 10 日 (金), 11 日 (土) に, 第 107 回学術大会が小林義典教授 (日本歯科大学歯学部歯科補綴学第 1 講座) を大会長として, 文京シビックホールにおいて約 2,100 名と多数の参加者を得て開催されました。今回は, 「新しい歯科補綴のパラダイム—咬合の新しい展開—」をメインテーマに掲げて行われました。黒川 清教授 (東海大学医学部長) による特別講演「21 世紀国際化時代の日本の課題」, 小野 繁教授 (東京医科歯科大学大学院) による教育講演「補綴臨床に必要な心身医学的治療姿勢」と 2 つの興味深い講演に加え, メインシンポジウム「インプラント補綴の咬合」, システムティックレビュー「咬合と EBM」, 臨床シンポジウム「新しい人工歯への挑戦」, 新企画の技術・技工セッション「インプラント補綴におけるオーラルデザイン」などの多数の企画が展開され, 活発なディスカッションがなされました。加えて翌 12 日 (日) には, 日本学術会議咬合学研連との併催シンポジウム「咬合と睡眠—睡眠時無呼吸との関わり—」も開催されました。

また, 第 106 回学術大会に続き第 107 回学術大会においても大韓歯科補綴学会 (KAP) から Choi Dae Gyun 新会長をはじめ 20 人の先生方が参加されました。国際セッションにおいても韓国から 7 題の発表がありました。

今回のニュースレターでは, 第 107 回学術大会報告, 理事会, 評議員会, 総会における議決事項, 今話題の法人化等を中心にご報告いたします。

## 新企画 技術・技工セッション始まる

第107回学術大会から技術・技工セッションが始まりました。このセッションは、補綴装置製作に関する新しい技術や技工のテクニック、あるいは臨床現場と技工現場とのスムーズな連携などについて検討するセッションです。今回は、「インプラント補綴におけるオーラルデザインー技工サイドと臨床サイドのチームコラボレーション」と題して行われました。

4名の先生方により講演が行われた後、フロアからの発言を含め熱心な討論がなされました。歯科医師のみの考えでは良質な補綴装置は患者さんに提供できないことが、再確認された大変有意義なセッションでした。

## 課題口演優秀賞受賞演題紹介

第107回学術大会において課題口演を募集したところ、応募数が予定演題数をオーバーしたため、一部の申し込み演題はほかの発表に回って頂き、応募された先生方には大変ご迷惑をおかけしました。そのため、今回も第106回学術大会と同じく2会場に分けて行われました。

課題口演コンペティションにおいて、以下の先生方の演題が優秀賞を受賞されました。

1. 池邊一典, 北村和也, 森居研太郎, 小野高裕, 野首孝祠 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座)「自立した高齢者の咀嚼能率と咬合支持, 咬合力ならびに唾液分泌との関係」
2. 中島 克, 佐藤裕二, 是竹克紀, 永井伸郎, 新土井宣晶, 赤川安正 (広島大学歯学部口腔機能修復学講座 (歯科補綴学第一))「インプラントのスレッド構造が周囲骨における応力分散に及ぼす効果」
3. 松本卓也, 岡崎正之\*, 豊永卓士, 山田真一, 濱田吉之輔, 高橋純造 (大阪大学大学院歯学研究科バイオマテリアル学分野, 顎口腔咬合学分野, \*広島大学歯学部歯科理工学講座)「低結晶性アパタイト粉末を用いた増殖因子放出制御」
4. 松浦尚志, 椿 賢, 都築 尊, 蔵本茂

禎, 今村英之, 城戸寛史, 佐藤博信 (福岡歯科大学咬合修復学講座)「チタン上で培養した骨芽細胞の石灰化過程における低分子量プロテオグリカンの発現変化」

## 編集委員の委嘱について

英文誌発行に伴い、以下の先生方が編集委員に新たに委嘱されました。

川和忠治先生

(昭和大学歯学部冠橋義歯学教室)

萩原芳幸先生

(日本大学歯学部クラウン・ブリッジ学講座)

川良美佐雄先生

(日本大学松戸歯学部総合歯科診療学講座)

藤田忠寛先生

(神奈川歯科大学高次口腔科学研究所)

## 準会員設置に伴う会則変更

準会員が昨年度の総会において承認されましたが、以下のように会則も一部改正され、第107回学術大会時の総会において承認されました。

### 第2章 会員

(新規および主な訂正部分のみ抜粋)

第3条 本会の会員は、正会員、特別会員、名誉会員、法人会員、準会員とする。

(中略)

(5) 準会員とは、本邦の歯科医師以外の者、国外在住外国人、本邦在住外国人等で、理事会の承認を得た者をいう。準会員の詳細については別に定める。(新規)

(以下、略)

## 名誉会員紹介

以下の2名の先生が名誉会員になりましたので、ご紹介します。

坂口邦彦先生 (昭和11年7月10日生まれ)

略歴

大阪歯科大学歯学部卒業

北海道医療大学歯学部歯科補綴学第2講座教授

北海道医療大学歯学部附属病院長

東日本学園法人評議員

学会活動

日本補綴歯科学会理事

日本補綴歯科学会東北・北海道支部長

第 89 回日本補綴歯科学会学術大会長

佐藤隆志先生（昭和 11 年 12 月 8 日生まれ）

略歴

大阪大学歯学部卒業

岡山大学大学院医歯学総合研究科教授

岡山大学歯学部附属病院長

岡山大学評議員

学会活動

日本補綴歯科学会理事

日本補綴歯科学会会則等検討委員会委員長

日本補綴歯科学会理事

長谷川成男先生（昭和 8 年 10 月 17 日生まれ）

略歴

東京医科歯科大学歯学部卒業

東京医科歯科大学歯学部第二歯科補綴学教室教授

明倫短期大学教授 歯科技工士学科

学会活動

日本補綴歯科学会学術担当理事

日本補綴歯科学会庶務担当理事

第 89 回日本補綴歯科学会学術大会長

平安亮造先生（大正 15 年 2 月 21 日生まれ）

略歴

大阪歯科医学専門学校卒業

九州大学歯学部歯科補綴学第一講座教授

九州大学歯学部附属病院長

九州大学名誉教授

大阪歯科学院専門学校校長

学会活動

日本補綴歯科学会九州支部長

日本補綴歯科学会理事

第 72 回日本補綴歯科学会学術大会長

日本補綴歯科学会名誉会員

松浦智二先生（昭和 6 年 8 月 1 日生まれ）

略歴

九州歯科大学卒業

福岡歯科大学歯科補綴学第 II 講座教授

福岡歯科大学附属病院長

福岡歯科大学名誉教授

学会活動

日本補綴歯科学会副会長

日本補綴歯科学会九州支部長

日本補綴歯科学会理事

第 85 回日本補綴歯科学会学術大会長

三木敬一先生（大正 15 年 1 月 16 日生まれ）

略歴

大阪歯科医学専門学校卒業

北海道大学歯学部歯科補綴学第一講座教授

北海道大学歯学部附属病院長

北海道大学歯学部長

## 学会特別功労賞受賞者紹介

以下の 6 名の先生が学会特別功労賞を受賞されましたので、ご紹介します。

小林義典先生（昭和 17 年 9 月 1 日生まれ）

略歴

日本歯科大学卒業

日本歯科大学歯学部歯科補綴学第 1 講座教授

学会活動

日本補綴歯科学会会長

日本補綴歯科学会副会長

日本補綴歯科学会理事

日本補綴歯科学会学術委員会委員長

第 100 回学術大会企画委員会委員長，同組織委員会委員長

第 107 回日本補綴歯科学会学術大会長

末次恒夫先生（昭和 9 年 2 月 11 日生まれ）

略歴

東京医科歯科大学歯学部卒業

九州大学歯科補綴学第二講座教授

九州大学歯学部長

江西医学院名誉教授

九州大学名誉教授

学会活動

日本補綴歯科学会九州支部長

北海道大学名誉教授  
学会活動  
日本補綴歯科学会東北・北海道支部長  
日本補綴歯科学会理事  
第 59 回日本補綴歯科学会学術大会長

## 学会論文賞決まる

以下の先生方が各賞を受賞されました。おめでとうございます。

### 学会論文賞

小林義典先生（日本歯科大学歯学部歯科補綴学第 1 講座）：咀嚼運動の分析による咀嚼機能の評価の信頼性

### 特定推進研究優秀賞

金谷 貢先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科歯科生体材料学部門）：高齢者および要援護高齢者にかかわるブリッジ数と有床義歯数の将来推計の試み

相澤秀夫先生（東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野）：自発嚥下時における顎筋、舌骨筋群活動の時系列的検討

### 中堅優秀論文賞

笠原 紳先生（東北大学大学院歯学研究科咬合機能再建学分野）：合着用セメントの粘性と被膜厚さの関係に関する研究

鈴木清貴先生（鶴見大学歯学部歯科補綴学第一講座）：全部床義歯患者の義歯調整回数に関する研究—タッピングポイントの安定性ととの関連—

### 奨励研究優秀論文賞

後藤まりえ先生（北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座咀嚼機能回復学分野）：可撤性義歯の失活支台歯の残存歯質量が支台歯辺縁部と築造体のひずみに与える影響

重田優子先生（鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座）：関節円板転位の有無が片側嚙みしめ時の下顎頭変位に及ぼす影響

宮前 真先生（愛知学院大学歯学部歯科補綴学

第一講座）：磁性アタッチメントの漏洩磁場が磁石構造体への微生物付着に及ぼす影響

長尾亜希子先生（岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座）：関節円板前方転位症例における顆路角と切歯路角の関係

## 学会会員数の状況

平成 14 年 4 月 30 日現在で、正会員数 6,416 名と昨年同時期に比べて 104 名増加しています。他学会では会員数が減少傾向にあると聞きますが、本学会では大きく増加しており、これも各先生方からのご紹介が大きく貢献しているものと思います。準会員も設置されましたので、今後とも会員数増強にご協力をお願いいたします。

なお、法人会員は 48 社、名誉会員 46 名、雑誌寄贈先国内 36 団体、国外 27 団体、定期購読者 34 件です。



ニュース KAP 秋期学術大会において龍田先生ポスター優秀賞受賞される

平成 13 年 11 月 23 日に開催された KAP 秋期学術大会において龍田光弘先生（大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座）が「Assessment of the occlusion in patients with temporomandibular disorders using T-Scan 2 system」により Poster Award を受賞されました。

## 第 80 回 IADR で Prosthodontic Group と本学会との合同シンポジウム開催

San Diego で行われた第 80 回 IADR において、IADR の Prosthodontics group と本学会のジョイントでシンポジウム「Development of composite/precursor tissue analogues: A new concept for engineering functional tissues in cranio-maxillofacial restoration」が開催されました。本シンポジウムは、Prosthodontic group の西村一郎会長（UCLA 大学教授）がコーディネーターとなり、歯科補綴学の今後の方向性を考えるという趣旨のもとに企画されたものです。本学会としてもその趣旨に賛同し、本シンポジウムを共催することにより、本学会の姿勢を示すことができました。



## 診療報酬改正で本学会からの 答申が採用される

支台築造の保険点数は、従来、印象材、金属材料など込みの設定で、診療行為に比べて点数が低く評価されていました。そこで診療に見合うだけの点数の増点を医療問題検討委員会では川添会長とともに、日本歯科医師会に答申しましたが、これについて今回の診療報酬改正で30点の増点が認められました。

## 第108回学術大会案内（予定）

開催日：平成14年10月11日（金）、12日（土）  
会場：名古屋国際会議場  
〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1-1  
TEL：052-683-7711 FAX：052-683-7777

大会長：藤井輝久教授

（朝日大学歯学部歯科補綴学講座）

メインテーマ：「新しい歯科補綴のパラダイム  
—歯科補綴の専門性—」

内容：一般口演、ポスター発表、課題口演、  
臨床口演、国際セッション

特別講演：「岐路に立つ歯科補綴学（仮題）」

Dr. David Felton (ACP 会長, Univ. of North Carolina at Chapel Hill)

メインシンポジウム：「歯科補綴の専門性（仮題）」

臨床シンポジウム：「オーバーレイデンチャーの  
過去・現在・未来（仮題）」

真鍋 顕先生（中国・四国支部）

長岡英一教授（鹿児島大学歯学部歯科補綴学第2講座）

長澤 亨教授（朝日大学歯学部歯科補綴学講座）

緊急シンポジウム：「こんなに使われている義歯  
安定剤（仮題）」

高橋英和助教授（東京医科歯科大学大学院医歯学  
総合研究科先端材料評価学  
分野）

早川 巖教授（東京医科歯科大学大学院医歯学  
総合研究科摂食機能評価学  
分野）

濱田泰三教授（広島大学大学院医歯薬学総合研  
究科歯科補綴学研究室）

渡辺宣孝先生（西関東支部）  
教育講演：「医学教育における OSCE の展開（仮  
題）」

伴 信太郎教授（名古屋大学医学部附属病院総  
合診療部）

研究教育研修：「エビデンスを「使う」」

名郷直樹先生（作手村国民健康保険診療所）

福岡敏雄先生（名古屋大学大学院医学研究科救  
急・集中治療医学）

臨床教育研修：「補綴治療のスキルアップ」

祇園白信仁教授（日本大学歯学部補綴学教室総  
義歯補綴学講座）

佐藤裕二教授（昭和大学歯学部高齢者歯科学教室）

佐藤 亨教授（東京歯科大学歯科補綴学第2講座）

技術・技工セッション：「未定」

問い合わせ先：山村 理

〒501-0296 岐阜県本巣郡穂積町穂積1851-1

朝日大学歯学部歯科補綴学講座

TEL & FAX：058-329-1467

E-mail：osamu@dent.asahi-u.ac.jp

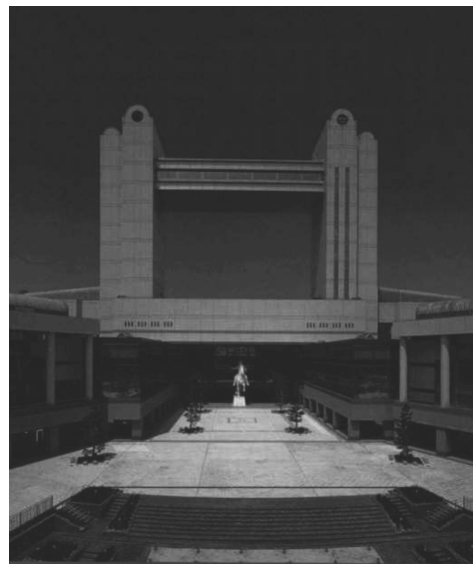
## 第7回認定医研修会（予定）

### 認定医ケースプレゼンテーション

開催日：平成14年10月13日（日）

会場：名古屋国際会議場

プログラムなどの詳細は、学会誌第46巻第4  
号掲載予定の学術大会案内をお読み下さい。



会場の名古屋国際会議場

## 今後の学術大会

### 第109回学術大会（予定）

開催日：平成15年5月9日（金）、10日（土）  
会場：品川区立総合区民会館「きゅりあん」  
大会長：石上友彦教授  
（日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座）

### 第110回学術大会（予定）

開催日：平成15年秋  
会場：長野市  
大会長：甘利光治教授（松本歯科大学）

### 第111回学術大会（予定）

開催日：平成16年春  
会場：東京都内  
担当：東京医科歯科大学

### 第112回学術大会（予定）

開催日：平成16年秋  
会場：神奈川県内  
担当：神奈川歯科大学

## 支部学術大会のお知らせ

### 東北・北海道支部

開催日：平成14年8月31日（土）  
会場：北海道歯科医師会館  
大会長：平井敏博教授  
（北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1講座）

### 関越支部（新潟県歯科医師会と共催）

開催日：平成14年8月4日（日）  
会場：新潟県歯科医師会館  
大会長：加藤久夫先生  
（新潟県歯科医師会常務理事）

### 東京支部

開催日：平成15年3月15日（土）  
会場：日本大学会館  
大会長：芝 燁彦教授  
（昭和大学歯学部有床義歯学教室）

### 西関東支部

開催日：平成15年2月16日（日）  
会場：山梨県甲府市

### 東海支部

開催日：平成14年11月23日（土）  
会場：朝日大学  
大会長：長澤 亨教授  
（朝日大学歯学部歯科補綴学講座）  
特別講演：上田 実教授  
（名古屋大学大学院医学研究科頭頸部・感覚器外科学講座）

### 中国・四国支部

開催日：平成14年9月1日（日）  
会場：広島県民文化センターふくやま  
広島県福山市東桜町1-21（エストパルク内）  
大会長：川村康中先生（中国・四国支部）

### 九州支部

開催日：平成14年8月25日（日）  
会場：熊本県歯科医師会館  
大会長：藤井弘之教授  
（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔機能管理学分野）

## 認定医更新のご案内

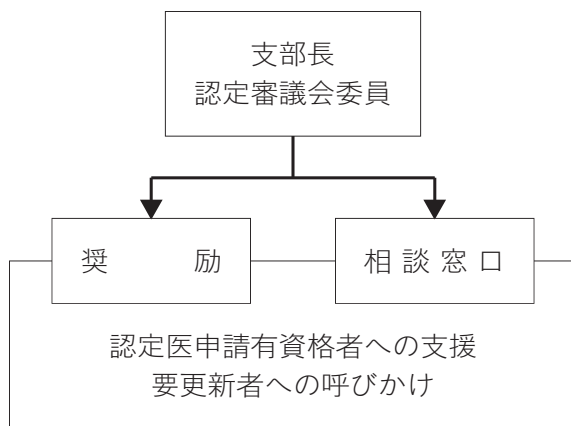
認定医の更新は5年ごとに行われ、認定期限の1年前から6カ月前までに申請することとなっています。毎年4月と9月に開催される認定審議会での更新を承認するため、有効期限6カ月を切って申請手続きをとった場合は、有効期限内に更新が認められないケースがありえます。このことは、認定医制度のしおりに記載されていますが、ときどき忘れる方がおられます。そこで、昨年度から、本人宛の更新手続き通知以外に、各認定医の研修機関にも認定医更新該当者の更新期限をお知らせすることとしました。

さて、更新手続き期限を過ぎた場合は全く無効になるのでしょうか？ 阪神・淡路大震災のときは震災のために更新条件を満たせなかった会員を対象に、更新手続き期限が延長されました。その

ほか、事情によって更新申請時に書類が揃わなかった場合も、その都度審議会で検討いたしております。認定医更新の資格と意志のある会員の声を拾い上げるのも学会の意義ある仕事の1つと審議会委員一同考えております。

最後に、更新時に助言がほしいとお考えの会員を支援するための体制についてお伝えします。支部ごとに支部長、認定審議会委員が相談窓口となる支援体制を整えました。直接支部長または審議会委員に連絡を取りにくい場合は、評議員にまずご相談下さい。評議員を通じて支援体制をとらせていただきます。学会としては、多くの会員が認定医を取得することと同時に、認定医を更新する際にも積極的に支援いたします（下図参照）。

認定審議会委員名簿と連絡先を本誌第46巻第3号巻頭に掲載いたしましたので、どうぞご相談ください。



「奨励」とは主に、大学に所属している会員で、認定医申請資格を満たす場合に、指導医を通して申請奨励するものです。

「相談窓口」とは主に、大学に所属していない会員に対して、申請・更新の助言をする指導医（大学）との連絡を行うものです。

### 医療広告規制の緩和について

厚生労働省は、「医療広告規制の緩和」に関して、「医業又は歯科医業・病院又は診療所関係の広告について」、次の基準を満たす団体から専門医の認定を受けた医師・歯科医師がいる旨、広告してよいとしています。条件とは、

- ・ 学術団体として法人格を有していること。
  - ・ 団体の会員数が1,000人以上であり、かつ、会員の8割以上が医師・歯科医師であること。
  - ・ カリキュラムに基づき5年以上の研修を行っていること。
  - ・ 資格の取得に当たって適正な試験を実施していること。
  - ・ 資格の更新制度を設けていること。
  - ・ 団体の会員及び認定した専門医の名簿が公表されていること。
  - ・ 専門医の資格要件を公表していること。
  - ・ 一定の活動実績を有し、その内容を公表していること。
  - ・ 問い合わせに応じる体制が整備されていること。
- となっています。本学会は、上記の団体基準のうち法人格を除いてすべてを満たしています。法人格の取得については、現在実現に向けて検討中であり、本学会の認定医の価値はますます高まるものと思われま。

（厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/>より抜粋）

### 法人化に対する本学会の対応

本学会の「法人化へ向けてのワーキンググループ」は、平成12年12月26日の会議のまとめとして、「今後の展開として新会長は法人化に向けての議論を進めていくか否かの方向性を明確に示す必要がある」を提示しました。川添新執行部はこれを受けて今期の6つの重点活動方針の1つに「法人化スタートの準備、検討」を掲げました。そして、具体的な活動としては、「前執行部におけるワーキンググループでの調査・検討結果をふまえ、さらに詳しい調査・研究を行うこと」としてあります。このことからまず、本学会にとっての法人化の必要性を「メリットとデメリット」の観点からさらに調査・研究することが必要であると考えます。以下、法人化の「メリットとデメリット」を列挙しました。

#### 法人化のメリットについて

- 1) 行政や社会などへ対する発言力の増強
  - (1) 日本歯科医師会や法人他学会などと協調して、国民の歯科医療向上への対行政へ

の働きかけや取り組みが可能となる（諮問機関としての役割）。

- (2) 保険点数の改正などに当たっては、本学会の意向を強く反映できる可能性がある。
  - (3) 日本歯科医師会への働きかけがより強固なものになる。
  - (4) 学会認定医制度による認定医の格が向上する。
  - (5) 対社会への啓発活動に対する行政や一般社会の支持が受けやすい。
  - (6) 学会の事業に対する他団体の支援を受けやすい。
- 2) 財政面からの社会的信用
- (1) 税務調査に正当に対応できる組織となり得る。
  - (2) 財産の所有が明確となり、あらたな事業展開が可能となる。
  - (3) 事業収益に対する課税が優遇される。
- 3) 学会運営の公平さ
- 代議員制によって学会の運営が公明正大となり、広く会員の意見を反映できる。

#### 法人化のデメリットについて（公益法人の場合）

- 1) 事務所開設などの必要経費が増大する。
- 2) 組織機構の変化による、会員の意識改革が求められる（定款に基づく定足数や議決数など）。
- 3) 会計基準に則った会計処理と税務申告が必要となる（公認会計士の関与など）。なお、本学会の「2本立ての会計」の見直しが不可欠である。

また、「法人化の基本的要件については、さらなる調査の続行が必要である。」とされています。

そこで今年度は、役員各位および専門家、他団体などから、さらなる意見を収集し、法人格取得に向けて具体的検討に移ります。

### 三学会合同会議報告

本学会と日本歯科保存学会および日本口腔外科学会との三学会合同会議では、国家試験への実技試験導入、認定医制度などを協議していますが、今回、教育問題小委員会を開催し、国家試験への

実技試験導入について具体的な話し合いを始めました。

小委員会では、「保存、補綴では実技試験を、口腔外科、歯周病等では診断、治療方針を重視した医療面接なども試験課題の視野に入れる」、「試験課題は学会別で検討する」、などのコンセンサスが得られました。今後は、詳細に検討していく予定です。



#### ニュース 新任教授紹介

以下の会員の先生方が新しく補綴関連講座等の教授に就任されましたので、ご紹介いたします。

石上 友彦先生（日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座）

川良美佐雄先生（日本大学松戸歯学部総合歯科診療学講座）

祇園白信仁先生（日本大学歯学部補綴学教室総義歯補綴学講座）

佐藤 裕二先生（昭和大学歯学部高齢者歯科学教室）

藤田 忠寛先生（神奈川歯科大学高次口腔科学研究所）

皆木 省吾先生（岡山大学大学院医歯学総合研究科咬合・口腔機能再建学分野）

### 海外研究機関の紹介

日本大学松戸歯学部補綴学第1講座

河相安彦

モントリオールは北米唯一のフランス語圏であるカナダ、ケベック州にあり、分離独立をいまだに最終目標としているユニークな州であります。厳しい冬の寒さと、心地良い夏が交互にやってくる気候環境のなか、この度 McGill 大学にて1999年秋より2年間研究を行う機会を得ました。

私は、歯学部の口腔機能回復部門（主任ジョセリン・ファイン教授）にて実施中の調製方法の異なる総義歯補綴物の無作為比較対照臨床試験の立案・プロトコール作成・実施・データ収集分析という一連の過程を修得する目的でメンバーに参加しました。ファイン教授のグループでは、80年代後半よりインプラントを併用した補綴物の比較臨床試験を手がけており、その内容については第100回記念大会で夫のランド教授が講演されたことは記憶に新しいと思います。私は、「全く新たな



に臨床試験のプロジェクトを立ち上げてみては」という助言を頂き、通法総義歯を教科書的な調製方法と簡略化した調製方法で行った場合の患者の満足度とコストを計測し、それらの関係进行分析し患者にとって有用な治療法は何なのかを明らかにしていくことを主眼に置いたテーマをスタートさせました。まず文献展望にはじまり、McGill 大学医学部倫理委員会の審査、診療室の整備・診療機器・器具の注文、患者募集を目的とした新聞広告の準備などを経て試験開始となり現在、約70名の被験者に総義歯を装着し、術後の満足度をはじめとしたデータを収集中であります。

当初は、フランス語もできない東洋の歯科医師で被験者が集まるのかと心配していましたが、幸いケベック州は気候・地理・経済条件などの要因から無歯顎者が多く、また移民立国の長所なのか、異文化に関して互いに寛容かつ楽しむ気風のもと、多くの患者さんに恵まれ、私の心配は全くの杞憂に終わりました。学術的に非常に得ることの多いと同時に、明るく気さくな患者の皆様との楽しく、かけがえのない日々でありました。



左が著者、右がファイン教授

大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座  
内田慎爾

私が1999年4月より2年間お世話になったSydney 大学歯学部 Jaw Function and Orofacial Pain Research Unit を紹介させていただきます。Sydney 大学はオーストラリア最古の大学で創立は1850年、歯学部の創設も国内で最も古いそうです。私が在籍していた研究室の主任はIven Klineberg 教授で、先生はSydney 大学歯学部補綴学講座の主任教授も兼任されておられ、1991

年から98年まで歯学部のDeanとしても活躍されています。補綴学では世界的に高名な先生で、顎顔面痛や顎頭蓋機能障害と尿路感染症との関連、顎機能に關与する反射機構、顎関節部の受容器に關してが最近の主な研究テーマです。助教授のGreg Murray 先生は、母校を卒業後トロント大学のSessle 教授の研究室でPhD を取得された生理学者で、現在は外側翼突筋上、下頭の単一運動単位活動、外側翼突筋の機能解析やCTによる三次元構築などを主に研究されています。

私は、この研究室で日本でも行っていた外側翼突筋の機能の研究に關連して、Murray 先生とともに特に下顎水平方向への力との關連性について単一運動単位の活動を觀察していました。Murray 先生は、咬筋の単一運動単位の研究で有名な同じオーストラリアアデレード大学のMills 先生やTurker 先生とも親交が深く、両先生からも単一運動単位の分析法などにつきいろいろ教えていただきました。

私が在籍していた期間は、ちょうどシドニーでオリンピックが開催された時期と重なったため、オーストラリア国内が最も華やかな盛り上がりを見せていました。現在のオーストラリアは周辺諸国からの移民を積極的に受け入れているため、国内、特にシドニーのような大都会では人種の坩堝で、とりわけアジア諸国のさまざまな人たちが暮らしており、研究室のスタッフや学部の学生もネイティブオーストラリアン以外の人たちがほとんどでした。みんなとてもフレンドリーで慣れない海外生活の不安を一掃してくれ、2年間快適に過ごすことができました。



左からKlineberg 教授、著者、Murray 助教授

## 関連学会案内

### 第 15 回日本顎関節学会

開催日：平成 14 年 6 月 27 日（木）、28 日（金）  
会 場：日本都市センター  
大会長：天笠光雄教授  
（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野）  
特別講演：守屋秀繁教授  
（千葉大学大学院医学研究院整形外科）「関節疾患の臨床における関節鏡視下手術の役割」  
内容：教育講演、シンポジウム、他

### 第 13 回日本老年歯科医学会

開催日：平成 14 年 6 月 29 日（土）、30 日（日）  
会 場：広島国際会議場  
大会長：濱田泰三教授  
（広島大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学研究室）  
特別講演 1：新庄文明教授（長崎大学歯学部予防歯科学講座）「地域医療における高齢者歯科の課題」  
特別講演 2：中島篤巳先生（中島医院）「高齢者地域医療」  
教育講演：緒方克也先生（おがた小児歯科医院）「老化と重心移動」  
シンポジウム 1：「21 世紀の高齢者歯科学提言」  
シンポジウム 2：「在宅歯科医療用器具、材料を再考する」  
シンポジウム 3：「痴呆高齢者への対応」  
市民フォーラム：「高齢者のオーラルヘルスケア」

### 第 10 回顎顔面バイオメカニクス学会

開催日：平成 14 年 7 月 6 日（土）、7 日（日）  
会 場：東京歯科大学水道橋校舎血脇記念ホール  
大会長：岸 正孝教授  
（東京歯科大学歯科補綴学第 3 講座）

### 日本実験力学会 2002 年度年次講演会

開催日：平成 14 年 8 月 5 日（月）、6 日（火）  
会 場：和歌山大学システム工学部 A 棟

演題締切日：平成 14 年 6 月 28 日（金）

問い合わせ先：米山 聡先生

〒 640-8510 和歌山市栄谷 930

和歌山大学システム工学部光メカトロニクス学科

TEL：073-457-8188 FAX：073-457-8213

本講演会は本学会が協賛しています。

### 第 16 回日本顎頭蓋機能学会

開催日：平成 14 年 9 月 14 日（土）、15 日（日）  
会 場：チサンホテル新大阪  
大会長：田村康夫教授  
（朝日大学歯学部小児歯科学講座）  
メインテーマ：「咬合のクリニカルエビデンスを見つけよう」  
特別講演：R.B.Kerstein 臨床教授（タフツ大学）  
「21 世紀における咬合治療—このように日常治療に応用できる」  
教育講演：田村康夫教授（朝日大学歯学部小児歯科学講座）「若年者 TMD の特徴と対応」  
シンポジウム：「TMD 患者が訴える痛みへの対応—顎顔面痛を含めた対応」  
公開症例相談「各分野指導医との症例相談」  
プレセミナー：覚道健治教授（大阪歯科大学口腔外科学第 2 講座）「臨床医のための TMD 診断における MRI 撮影の実際」

### 第 32 回日本口腔インプラント学会

開催日：平成 14 年 9 月 20 日（金）～22 日（日）  
会 場：広島国際会議場  
大会長：赤川安正教授  
（広島大学大学院医歯薬学総合研究科先端歯科補綴学研究室）  
メインテーマ：「21 世紀におけるインプラントの新しいスタンダード」  
特別講演 1：Kenneth Malament 先生（タフツ大学）「スペシャリストが行うインプラント 審美補綴」  
特別講演 2：清水慶彦教授（京都大学再生医学研究所）「再生医学の最先端」  
シンポジウム 1：「イミディエイトローディング—その現在と未来—」  
シンポジウム 2：「20 Years Osseointegration」

教育講演 1 : 小林義典教授 (日本歯科大学歯学部歯科補綴学第 1 講座)「インプラント補綴の機能的回復のレベルと長期的推移」  
教育講演 2 : Hiroshi Hirayama 教授 (タフツ大学補綴大学院)「アメリカにおけるインプラントのスタンダード」  
招待講演 : 陳 治清教授 (華西医科大学)「新世紀口腔インプラント材料の研究戦略」  
市民フォーラム : 「美食を楽しむ人生」

## 関連国際学会案内

### 第 1 回咀嚼と健康国際会議 (第 13 回日本咀嚼学会と併催)

開催日 : 平成 14 年 9 月 15 日 (日)~18 日 (水)  
会 場 : パシフィコ横浜  
担 当 : 第 1 回咀嚼と健康国際会議組織委員長 : 石川 烈教授 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)  
第 13 回日本咀嚼学会学術大会大会長 : 小林義典教授 (日本歯科大学歯学部歯科補綴学第 1 講座)  
内 容 : シンポジウム, 招待講演, 他  
本会議は, 本学会が後援しています。

### 第 5 回国際顎顔面リハビリテーション学会 (第 19 回日本顎顔面補綴学会と併催)

開催日 : 平成 14 年 10 月 3 日 (木)~5 日 (土)  
会 場 : 万国津梁館 (沖縄県名護市)  
大会長 : 大山喬史教授  
(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能構築)

### 第 4 回国際歯科材料学会議

開催日 : 平成 14 年 10 月 29 日 (火)~11 月 1 日 (金)  
会 場 : ハワイコンベンションセンター  
主 催 : 日本歯科理工学会, Academy of Dental Materials  
協 賛 : 日本補綴歯科学会, 日本歯科保存学会  
メインテーマ : Expanding Horizons of Biomaterials and Technology  
トピックス : 歯冠代替, 軟組織代替, 硬組織再生・再建, 自己再生, 抗菌, 傾斜機


能, 表面修飾  
会議参加登録費 : 事前登録 (平成 14 年 9 月 15 日まで) \$300  
申込先 : <http://www.academydentalmaterials.org>

### 日中国交正常化 30 周年記念 日中医学大会 2002

開催日 : 平成 14 年 11 月 3 日 (日)~6 日 (水)  
会 場 : 北京国際会議場 (北京, 中国)  
大会事務局 : (財) 日中医学協会  
<http://www.jpccnma.or.jp>  
TEL : 03-3297-9161 FAX : 03-3297-9164

### 第 52 回 American Academy of Fixed Prosthodontics

開催日 : 平成 15 年 2 月 28 日 (金)~3 月 1 日 (土)  
会 場 : Chicago Marriott Hotel  
Table Clinic 演題の募集 : Fixed Prosthodontics  
に関連する臨床的なテーマに限ります。  
non-member が最初に発表する場合は登録費が免除されます。  
演題抄録締め切り : 平成 14 年 8 月 15 日  
問合せ・申込先 : Table Clinics Chairman  
Dr. Hiroshi Hirayama  
E-mail : [hiroshi.hirayama@tufts.edu](mailto:hiroshi.hirayama@tufts.edu)

 ニュース 姓名のローマ字表記変更  
従来, 日本補綴歯科学会雑誌の論文著者名のローマ字表記は名, 姓の順に記載していましたが, 日本語と同じく姓名の順に記載することになりました。すなわち, 日本太郎は従来, Taro Nippon でしたが, これからは Nippon Taro となります。なお, 46 巻 1 号掲載論文から適用されています。

## 関連学会報告

### 平成 13 年度日本口腔インプラント学会 関東甲信越支部学術大会

上記学会が平成 14 年 2 月 10 日 (日) に深井眞樹先生を大会長として, 都市センターホテルにて開催されました。特別講演は昨年, 国際フォーラムでご講演いただけなかった西村一郎教授 (UCLA 大学) により「21 世紀のインプラント治

療とティッシュエンジニアリングの展望」と題して行われました。一般講演も 55 題行われました。

### 第 15 回歯科チタン学会

平成 14 年 3 月 16 日（土）に昭和大学歯学部にて行われました。今年度は、パネルディスカッション形式で「歯科保険適用合金の行方とチタンへの期待」と題して行われました。この企画は、第 107 回学術大会時に緊急シンポジウムとして取り上げた「金銀パラジウム合金に代わる材料を求めて」の後を受けた形で行われました。各関連学会から選ばれたパネリストにより、活発な討議が行われました。本学会からは、松村英雄助教授（長崎大学歯学部歯科補綴学第 1 講座）、黒岩昭弘助教授（松本歯科大学歯科補綴学第 1 講座）がパネリストとして参加されました。

### 第 20 回日本顎咬合学会

平成 14 年 4 月 13 日（土）、14 日（日）に平井敏博教授（北海道医療大学歯学部歯科補綴学第 1 講座）を大会長として、国際フォーラムにて開催されました。今回のメインテーマは「咬み合わせと健康—咬合・咀嚼はどこまで健康に寄与できるか—」でした。特別講演は、McHarris W.H. 先生により（テネシー州メンフィス開業）により「Reconstruction of complex restorative cases」と題して、また安孫子宜光教授（日本大学松戸歯学部生化学講座）により「バイオサイエンス応用による未来の歯科医療」と題して行われました。そのほか、シンポジウム「咬合再構成における問題点—アンテリア・ガイドランスは臨床の悩みの種か—」、32 題のテーブルクリニック、歯科技工士講演、歯科衛生士講演、会員発表など、多数の催し物も行われました。

### 関連国際学会報告

#### 第 80 回 IADR General Session

3 月 6 日から 9 日まで、カリフォルニア州サンディエゴ市のコンベンションセンターで、第 80 回の IADR General Session が開催され 4,000 題をこえる発表が、口頭ならびにポスターで行われ、日本から多くの研究者が参加しました。Prosthodontics では約 250 題と少なかったものの、補綴学関連で Implantology, Material, Neuroscience,

Geriatrics のセッションで発表されたものも多く、それらを含めると 500 題近くになると考えられます。Prosthodontics での発表ではクラウン、ブリッジ、支台築造関連が 30% 近くを占め、次いで審美、有床義歯関連がそれぞれ約 15%、インプラント関連が 10% でした。日本からの発表は同グループ全体の 20% 近くを占めていました。また、江草 宏先生（広島大学歯学部口腔機能修復学講座（補綴第二））の「Response of Human Gingival Epithelial Cells to Candida albicans Infections」に対してシニア部門のハットン賞が授与されました。

### 新入会会員紹介

以下の先生が新たに入会されました。今後の学会でのご活躍を期待します。

明石雅江、石田 聡、荻原宏志、坂本義哉、高田敏寿、千葉和彦、豊下祥史、松樹隆光、吉田 正、ラングハンス、有留久美子、池田あゆみ、井出正俊、遠藤正樹、大庭伸介、片倉 修、黒田真司、古敷谷昇、清水 肇、田村文誉、中曾根祐司、藤田武敏、星野紘子、松井由布子、向井美恵、澁谷勝男、野本理恵、二瓶智太郎、星 憲幸、岡田栄介、綱川健一、長野泰弘、廣嶋ふみ子、野川裕樹、青山貴廣、天野優一郎、宇和山毅、海田健彦、賀島 健、加藤賢吾、佐野直彦、竹内まさ美、出崎義規、峯村崇史、山田耕弘、米山武義、清見好伯、坂口喜史夫、出口幹人、松本卓也、南 清和、柳 美香、綿本隆生、吉田泰規、辻 光弘、佐々木乃扶子、浜窪洋平、村原貞昭、揚 磊

#### 広報委員会からのお願い

広報委員会では、学会に対する皆様からのご意見、ご要望、ご質問をお待ちしております。下記のファックスかメールにてお願い致します。

〒500-8309 岐阜市都通 5-15  
朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所  
日本補綴歯科学会広報委員会  
委員長：山内六男 幹事：岩堀正俊  
TEL：058-253-7272 FAX：058-255-0350  
kohojps@dent.asahi-u.ac.jp